

検定試験の第三者評価 【簡易版】 総括評価 評価結果

1. 対象検定試験 日本語検定
2. 実施運営団体 特定非営利活動法人 日本語検定委員会
3. 受審有効期間 2026年9月まで有効とする
4. 評価講評

●大項目Ⅰ 検定試験の実施主体に関する事項

検定試験の目的及び受検に関する情報はHP等に明確に示されている。組織体制、事務処理体制、危機管理体制はよく整えられ、継続的・安定的に検定試験を実施できる体制が構築されている。財務経理情報は適切に整備され、検定試験実施団体として適正な運営がなされている。検定試験に関する情報は情報公開チェックリストに基づき適切に公表されている。個人情報保護方針を制定しPマークを取得している。毎年の自己評価更新及び第三者評価の継続的な受審、受検者へのアンケートを実施し運営の見直しを行うなどPDCAサイクルに基づき運営改善に努めている。

●大項目Ⅱ 検定試験の実施に関する事項

検定試験の内容やレベルは学習指導要領にも配慮して学年・年齢層別に設定されており、検定実施に関する情報はHP等で公開されている。また、フリーダイヤルやインターネット（メール）による問い合わせ対応を準備するなど、受検者の利便性向上に努めている。試験問題は漏洩の無いよう検定試験の回ごとに一貫した管理体制がとられている。障害のある方の受検への対応はHPに公開され、公平に受検できるよう配慮されている。試験運営に関するマニュアルは整っており、検定試験が適切に実施されるよう努めている。検定試験終了後に合否判定会議・問題作成委員会を開催し、試験問題各級の水準を検証して次の作問の際に反映している。

●大項目Ⅲ 検定試験の試験問題に関する事項

試験問題は問題作成委員会で作問し審議委員会の承認を得ている。合否判定は、合否判定会議を開催するなど、明確なプロセスが定められている。試験結果については問題作成委員会が分析を実施し、審議委員会で承認を得る手順が定められており、試験問題の妥当性が担保されている。

●大項目Ⅳ 継続的な学習支援・検定試験の活用促進

合格者には認定書と認定証明書、試験結果のカルテが発行され、受検者の達成した能力がわかりやすく表示されているだけでなく、継続的な学習の参考にできるよう配慮されている。HPには学生や社会人などの受検者の声だけでなく、活用先である企業・団体の事例も公開されるなど、受検者や活用先の参考になるよう様々なコンテンツが発信されている。

5. 評価達成率

大項目	該当項目数	達成項目数	達成率
1. 検定試験の実施主体に関する事項	9	9	100%
2. 検定試験の実施に関する事項	16	16	100%
3. 検定試験の試験問題に関する事項	4	4	100%
4. 継続的な学習支援・検定試験の活用促進	6	6	100%
合計	35	35	100%